

## CONTENTS

- ・クリニックを開院して 16 年
- ・村口きよ女性クリニック訪問
- ・オフタイム  
「今年も大収穫！」

Muraguchi Kiyo Women's Clinic

## クリニックを開院して 16 年

## 性行動をめぐる日本社会の『激変』とともに歩んだ日々を振り返って

院長 村口喜代

私がクリニックを開院したのは 1999 年 6 月でした。長かった、24 時間体制の過酷な勤務医生活に終止符をうち、日中だけの外来診療のクリニックで医師生活の締めをしようと新たなスタートを切った。たまたまこの年は、日本社会の在り様がリセットされた年でした。同年 5 月に「男女共同参画社会基本法」が施行された。9 月には長く待たされ続けた「ピルの正式認可」が、そして 11 月に性感染症新法が施行され、「性病予防法」時代が終わり、「性病」の用語が消え、セックスがあれば誰でも感染するかもしれない「性感染症」と呼ばれる時代となつた。

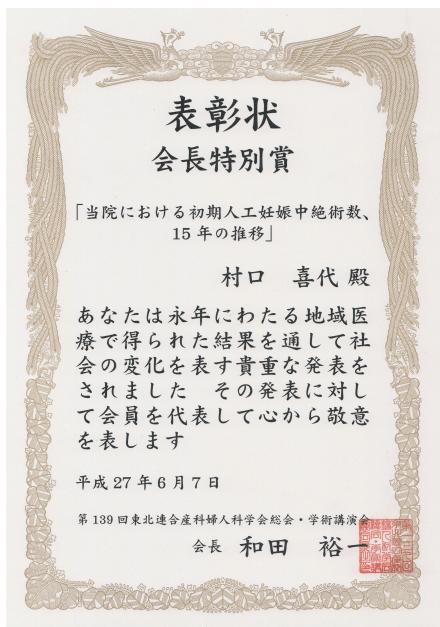
1990 年代は日本社会の性開放が一気に進み、無防備な性行動が特に若者の間に加速し、「人工妊娠中絶」「性感染症」が増加し続けていった。その真っ只中に私は小さなクリニックで医療活動を開始することになった。中絶数、性感染症は年々増えつけ、その対応に追われることとなつた。助産師・看護師そして事務職等とともにチームワークを作り、健康支援・保健指導を強化してきた。しかしながら、こうした日々も数年を待たずして、2003 年頃から少しづつ変化の兆しが見えてきた。以来「中絶数」は減少の一途を辿ってきた。現在は最高時の 8 割減となつた。特に 10 年代の減少が著しい。

こうした変化は 厚生労働省衛生行政報告においても同様である。また「性感染症」も減少傾向にある。それは一面では歓迎されることはあるが、ピルや緊急避妊ピルの普及などで説明されるものではない。”性行動をめぐって、日本社会に大きな変化が起つてきた”その結果の反映であることは、大方知られることとなつた。性の欲望のままに

行動した「欲望の時代」から、性行動に伴うリスクを意識する「リスクの時代」へと転換したことか。性行動・性の関係性が足踏み、後退した。その背景に、LINE、Facebook、Twitter などの様々な SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)・・インターネットの進化・普及が大きいと思われる。また一方で、ワーキングプアの増加、とくに若者層の非正規雇用者数の増加など、日本経済の不安心性・減速も大きな影を落としているのであろう。

人間の性行動をめぐり、この短期間でこれほどに激変した日本社会をしみじみ考えてしまう。「性のデフレーションの時代」ということなのか。この 10 数年の医療活動を振り返って思うのである。これからどこに向かっていくのだろうかと・・・。

ちょっとうれしい報告です。第 139 回東北連合産科婦人科学会総会・学術講演会で発表した一般演題「当院における初期人工妊娠中絶数、15 年間の推移」に対して、会長特別賞をいただきました。



# 村口きよ女性クリニック訪問

## 「セクシュアリティと人権を考える会」宮城学院大学 浅野富美枝 教授



2015年7月22日、「セクシュアリティと人権を考える会」は今年も、学生11名の参加のもと、村口きよクリニックを見学訪問しました。

学生の多くは産婦人科に行ったことがなく、未婚の女性が行くのは恥ずかしいところ、自分には関係のないところと思っています。しかし、きよクリを見学した学生はこの固定観念觀から解放されます。以下、学生の感想を紹介します。

☆ 産婦人科の病院は、妊娠したか性感染症になった女性が行くところだと思っていましたが、今回初めてクリニックを訪問して、生理不順などからだの調子の悪いときにも行っていいのだということがわかりました。私は月経痛がきついので、今度は患者として来てみようと思いました。

☆ 前に生理不順で産婦人科に行ったのですが、男性の先生でとても嫌な体験をし、産婦人科なんか二度と行かないと思っていた。しかし今回訪問したクリニックは以前の病院とはまったく違っていました。病院もいろいろあり、自分に合うところを選ばなければいけないと思いました。

☆ 受付で口で言わなくても指差しで来院の理由を伝えることができること、望まない妊娠をした女性に対してプライマリーナーシングのシステムが導入されていること、男性向けのピアサロンがあってカウンセリングをしていること、困っている女性に無料で健康相談室を開設していることなど、「女性に優しい、女性が元気になれるクリニック」であることがわかりました。こんなクリニックもあるんですね！



今回は、クリニックのスタッフから女子高校生の妊娠・出産の話ををしていただきました。この話は学生にとって他人事ではなかつたようです。「すごく悩んだのだと思う」、「望まない妊娠をしてしまった場合、逃げ出したり、すぐに中絶しろという男性は少なくなっている。しかし彼女のパートナーは妊娠したという事実にしっかり向き合ってがんばった。」「周囲が反対するなかで多くの人の支えがあってこそ出産できたのだと思う。」などの感想が寄せられました。

最後に、忙しい仕事のなかで学生を受け入れてくださった村口先生はじめスタッフの皆様、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願ひいたします。

## 今年も大収穫！

医療事務 受付 高橋 智江

私の実家には兄と私が生まれた時に亡き祖父が記念樹で植えてくれた梨の木、そして、兄の子供が生まれた時に私の父が記念樹として植えた桃の木があります。今では父の趣味から林檎、巨峰、マスカット、プラム等もあり毎年夏は大収穫。いつの間にか母も一緒になり、一つ一つに袋を付けて実りを楽しみにしています。私も小さい頃は祖父と梨の木に袋を付けて、収穫を心待していたことを鮮明に覚えてます。今年もお盆に帰省した時に桃の収穫をしました。まだ少し硬いうちに取り、甘い匂いがするまでお仏壇にお供えしておきます。果糖の摂り過ぎに注意しながら美味しく毎年頂いてます。次回帰省時はお彼岸。祖父と私の思い出の梨を収穫してお墓参りに行きたいと思います。



## 臨時休診

現在、臨時休診の予定はございません。



## 編集後記

今年は記録的な猛暑日が続き、各地でサメも出現し、地球温暖化を感じた夏でした…。9月に入り、朝晩のひんやりとした爽やかな風と、美味しい秋の味覚で秋を感じられるようになりましたね。ホッと一息です。みなさまはどのような夏を過ごされましたか(?)

